

21～25日
市商工観光センターで
国際異体類生態学シンポ
23日には市民公開講演会

「第六回国際異体類生態学シンポジウム」(京都大学フィールド科学教育研究センター主催)が、二十一日～二十五日、浜の市商工観光センターで開かれる。二十三日には市民公開講演会「海の生きものとの未来…共存の道を探る」がある。宮城県気仙沼湾で漁師をしながら、山に木を植える運動をする島山重篤さんが講演する。入場無料。シンポジウムは一九九

〇年から三年に一回、世界各地で開催されており、日本で開催されるのは今回が初めてとなる。ヒラメやカレイなどの異体類の魚の生態学や栽培漁業などの研究成果の発表と情報交換をすることともに、食糧と環境問題に関連させながら今後の展望を議論する。国外二十二カ国から約八十人、国内から約六十人の研究者が集まる。五日間を通してセッション六まである

(英語で行われる)。
研究成果を市民に公開する講演会では、アメリカNOAAフオート研究所のジョンSパークさんが「海の保全と海洋生物学—アメリカ東海岸を潜る」、京大フィールド科学教育研究センター長の田中克さんが「渚の先住民 ヒラメ稚魚の『ひとり言』」、気仙沼でカキ養殖などをしながら植林活動をする島山さんが「森と海をつなぐ」心の植林「活動」と題して話す。時間は午後二時～同五時。だれでも来場できる。☎62・9062、同センター舞鶴水産実験所。